

サンプリング戦略

事例研究、質的研究をやる上で重要な論点が盛りだくさん

研究プロセスにおけるサンプリング

- 1 データ収集 事例・事例集団のサンプリング(問題を示す事例とは？)
- 2 データ解釈 資料・資料間のサンプリング(典型、逸脱、バリエーション等を示すもの？)
- 3 研究成果公表 提示の際のサンプリング(公表の意図、媒体、社会的効果は？)

サンプルをいつ決定するか？

- 事前決定 1 計量・統計的研究(母集団との関係において)
 - 2 質的研究 典型例からの分析
 - 3 完全調査 対象者のみ
- 多様な比較の可能性が限定される
- 事後決定 1 理論的サンプリング
- 2 段階的サンプリング
- どこでサンプリングをやめるか、それが難しい

理論的サンプリングとは？

- データ収集を行う際に、複数のデータを比較検討する可能性は無数にあるから、どの集団・事例を比較するのか、理論的な基準によって、対象を選択することが必要になる。
- 事例の比較検討は、「理論的飽和」(あるカテゴリの特性を新たに展開するデータが見つからない状態)に至るまで継続されなければならない。

理論的サンプリングと統計的サンプリング

- 母集団の範囲、特性が事前に分からない
- 段階的にサンプリングの基準を作る
- サンプル数は決まっていない
- 理論的飽和までサンプリングが継続される
- 母集団の範囲と特徴は事前に分かる
- 計画的に一回のみサンプリングを行う
- サンプル数は決まっている
- 全てのサンプルが調べられるまで継続する

段階的選択のバリエーション

- データトライアンギュレーション 異なる時間と場所で異なる対象を使って同じ現象を研究
- 例:募金活動 震災前後、震災中心・周辺、公共機関への振り込みと路上募金
- 分析的帰納 暫定的な理論を構築後、逸脱事例を探し、理論を確実なものにする
- 例:近年地震が予測される地域は災害対策が進んでいる 転倒防止、耐震建築、地震保険×

- 1 サンプル内の多様性を最大にする
例:開発の様々な形態・方法を考察
- 2 極端な、逸脱例の検討
例:ODAと受注企業・仲介官僚・政治家の
癒着
- 3 典型亭な事例の検討
例:ODA 予算規模と執行期間 インフラ
整備(少額の草の根、管理・評価が困難)

- 4 事例に研究の関心がどれだけ反映されるか
- 例:開発のキーパーソン、リーダーシップ論という観点から (外部資源の受け皿が行政、民間組織、卓越した政治家・篤農・運動家)
- 5 決定的な事例を選択
- 例:開発僧 宗教の社会貢献を見ようとする観点から 僧侶と寺院のコミュニティ形成機能を検討

- 6 政治的に微妙な事例の選択
- 例:開発僧による救国運動 (政治家・官僚・企業家の社会的責任が不明確に)
- 7 利便性の基準 (一般化可能性が低い)
- 例:開発局や国際協力銀行の友人に話を聞く
- 誰に話を聞いたらいいのか？

インフォーマント

- 第一選択肢：事柄に関する知識・経験を持ち、回答の用意がある 調査者の意図を理解し、協力を申し出てくれる
- 第二選択肢：第一の要素を一部持ち、回答の可能性がある 調査者の働きかけと補充が必要
- インフォーマントなしに、未知の領域は無理

サンプリングの目標

- 広さを求める できるだけ多くの事例を
- 例:大学改革 国により、設置形態により、時期により、改革主体により様々

- 深さを求める コンテキストの正確な理解
- 例 北大文学研究科の改革 (大学改革全体の流れのどこに位置付くのかは不明でも、改革の主体、手続き、諸問題の発生は分かる)

サンプルの中の事例

- 事例とは個別化された普遍である
- 例：学生に質問したら、私のプライバシーに踏み込まないでくださいと言われる
- 一般的な背景における個別な社会化
 - プライバシーは犯されざる基本的人権
- 特定の制度的文脈を示す
 - 教師による私的意見公表の強制

- 主観的世界を示す
- : 強制する権利は教師にはない
- 相互行為において行為の文脈を代表する
- : 教師は相互了解に至るためのコミュニケーションのつもりであったが、学生は私的秘密の暴露を強要されるように感じた
- 多層的世界におけるコミュニケーションの現代的課題と教育の営みという問題から